

## 「地域教育力を活用して、生涯を通してスポーツと関わる素地を育む」

神奈川県相模原市立大野小学校 教諭 佐藤 岬貴

### 1. はじめに

本研究テーマは、小学校体育学習における2つの課題から設定したものである。

#### (1) 運動への多様な関わりを通じた運動の楽しさやよさの実感

私が担当する5年1組34名のうち、32名が体育学習を肯定的に捉え、その理由は、「運動をすることが好きだから」という意見が大多数であった。対して、2名が否定的に捉え、その理由は、「運動が苦手だから」というものであった。いずれにせよ、運動を「すること」についての記述が目立った。また、体育の見方・考え方の4つの関わり方「すること」「みること」「支えること」「知ること」について具体例を提示した上で、「運動をするにあたって大切にしている視点はなんですか。」と聞くと、28名が「すること」と回答した。体育科は他教科に比べて、技能の差が見えやすい教科であるがために、どうしても児童は「できるようになりたい」、教師は「できるようにさせたい」という思いが強くなる傾向にあり、運動を「すること」に意識が偏ってしまっているのではないかと。

#### (2) 体育学習におけるスポーツチーム（地域教育力）活用のあり方

本校大野小学校（鶴野森中学校区の他2校も含む）は、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）があり、「地域とともにある学校づくり」を目指し、教師、保護者、地域が力を合わせて児童の成長のため、日々励んでいる。体育学習では、相模原市をホームタウンとするスポーツチームをゲストティーチャー（以下、GT）として活用しており、動きのポイントやルールの指導など「知識及び技能」をメインとした関わり方がパッケージ化されている現状がある。その運動領域についての高い専門性を有するスポーツ選手の指導や言葉は、児童にとって非常に説得力のあるものである。そこで、「知識及び技能」の育成だけでなく、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成にもスポーツ選手を大いに活用できるのではないかと。

### 2. 研究の概要

#### (1) 目指す児童の姿と研究仮説

本実践では、運動は「すること」以外によさや楽しさがあることや、自分の特性にあった運動への関わり方があることなどに気づかせたい。運動を「支えること」について意識している児童が少なかったことから、特に「支えること」に重きを置くこととする。児童は、運動での「支えること」はどのようなことなのかを理解できていないために、よさや楽しさを味わうことができていないように感じる。そのため、本研究では、「支えること」は、「仲間の考えや取り組みを認め合い、励まし合い、支え合うために前向きな言葉を掛けること」と捉えた。目指す児童の姿に加え、前節で述べた小学校体育学習の課題を踏まえ、以下のように研究仮説を立てた。

【研究仮説】 教師が地域スポーツチームを意図的・計画的に活用することで、児童が運動への関わり方「支えること」のよさや楽しさを味わうことができるのではないかと。

#### (2) 教材設定の理由

研究仮説を検証するため、ボール運動ゴール型「タグラグビー」を実践した。タグラグビーは、他のゴール型にはない最大の特徴として自分より前にパスができないことがあげられる。「前に進みタグを捕られたら、仲間にパスをする」の繰り返しであり、仲間と協力しながら自陣を少しずつ進めていく。その他にも、動き方や作戦などイメージの共有、コート内外での励ましや称賛などが重要となり、「支えること」に焦点化しやすい運動といえる。そこで、ホームタウンチームである「三菱重工相模原ダイナボアーズ」を活用し、実践を進めた。

### 3. 研究について

#### (1) 授業実践

##### ①単元名

「かわしてつないでトライ（タグラグビー）」【E ボール運動 ア ゴール型】（小学校 第5学年）

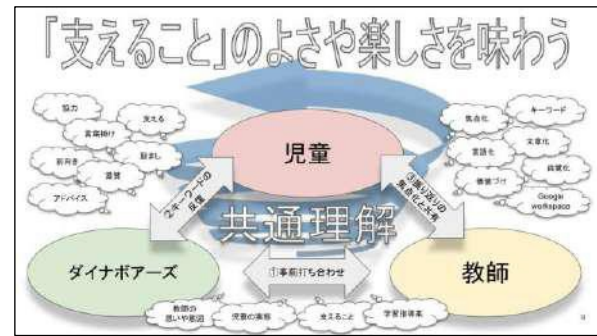
## ②「支えること」に関連した主なねらい

- ・気付いたことをもとに、チームでよりよく攻めるための活動の仕方を選んだり自分の役割を確認したりすることができるようにするとともに、自分や仲間思ったことや考えたことを伝え合うことができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・互いが表現していることを認め合い、励まし合い、支え合うために前向きな言葉を掛け合うことができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

## (2) 研究テーマに迫る手立て「三者（教師とダイナボアーズと児童）の共通理解」

【図1】研究構想図

授業に関わる全ての者が授業について共通理解を図り、同じ目標に向かって学習を進めていくことが非常に重要だと考える。三者の共通理解を図るために3つの手立てを講じた。【図1】



### ①事前打ち合わせ（教師⇨ダイナボアーズ）

教師とダイナボアーズの共通理解を図るために、授業来校前に事前打ち合わせを行い、学年で練った単元構想案や単元計画案をもとに、教師の思いや連携する意図を説明する。教師からチームへの説明が不十分であると、教師とチームでの目的意識のずれが生じてしまう。教師側の思いや意図だけでなく、チーム側の意見や助言も伺いながら、ともに授業をつくっていく。事前打ち合わせの際は、スライドや学習指導案（細案）を用いながら行うことで、ずれをなくす一助とする。【図2】

【図2】教師とダイナボアーズ、教師と児童の共通理解を図るためのスライド資料の一部

### ②キーワードの反復（ダイナボアーズ⇨児童）

本単元のキーワードとして、「支える」「協力」「言葉掛け」「励まし」「前向き」「賞賛」「アドバイス」などが挙げられる。児童の気付きから発展させ、教師が単元を通して繰り返し使うことに加え、ダイナボアーズからも意識的に使ってもらう。児童、教師が発する言葉をダイナボアーズに強化してもらうイメージである。ここでスポーツチームの説得力が大いに発揮される。来校後の学習でも教師がキーワードを使い続けたり、使っている児童を積極的に価値づけたりすることで、1時間の学びを単体にするのではなく、単元全体の太い軸へとしていく。

### ③振り返りの焦点化と共有（教師⇨児童）

言語化しながら思考を整理し、「支えること」の具体的な行動とそのよさや楽しさを価値付けることをねらいとした。また、「仲間どんな言葉を掛けることができましたか」「それはどんな言葉ですか」などとキーワードをもとに視点を与え、焦点化していった。さらに、単元前半やGT来校時、単元終末の振り返りは、Google フォームを活用することで、友だちの意見をリアルタイムで見られるようにする。送信された回答から教師が確認をし、単元の目指す姿に迫る記述をしている児童には色をつけ価値づけることで、価値を共有した。

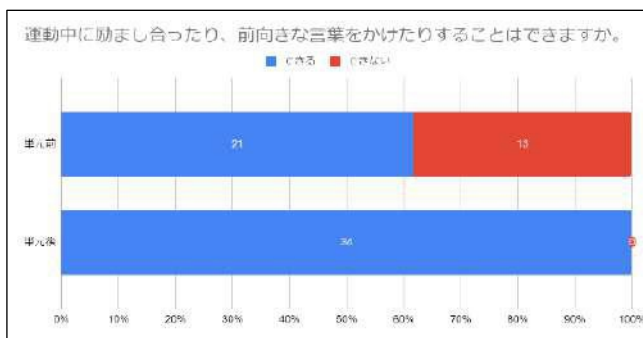
### (3) 児童の様子

GT来校時の振り返りでは、キーワードをもとに焦点化し、仲間の考えや取り組みを認め合い、励まし合い、支え合うために前向きな言葉を掛けることのよさや楽しさを味わうことができた児童が多く見られた。【図3】

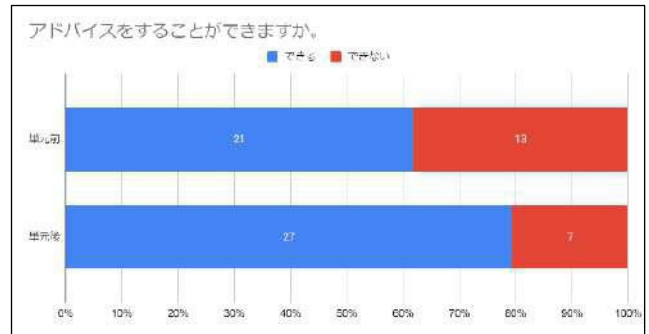
【図3】GT 来校時の振り返り

A 児	ダイナポアーズの方が教えてくれた「声掛けが大事」ということは、確かに大事だなと思いました。何故ならトライをしたときに仲間から「ナイス」や「いいね」など賞賛の言葉を掛けられて、とてもよい気持ちになれたからです。しかも、声を掛け合うとチームの仲がより深まると思います。
B 児	コート外の人「ナイストライ！」や「惜しい！惜しい！」などと励ましの声を掛けもらって、「次も頑張ろう！」という気持ちになれました。だから、声掛けは大事ということがわかりました。
C 児	コートの外からの声出し「もっと前〜」「左あいてるよ」「どんまい」「ナイスタグ〜」などはできた。けど、自分が試合中に声掛けをしようすると全然声が出せなかった。周りのひとが「大丈夫。次やる〜」とか励ましの言葉を掛けてくれて、少し気持ちが軽くなった気がしたので、自分がプレイしているときも点差つけられていたり、焦っていたりする場面があったら、少しでも気持ちが軽くなるように、励ましの言葉を掛けてあげられるようにしていきたいです。
D 児	今日は声出しを教えてもらいました。私は最初、恥ずかしくてあまり大きい声で応援できなかったけど、ダイナポアーズの方に教えてもらったお陰で大きい声で応援できるようになりました。また、拍手でもいいと聞き、「そんな表現でもいいんだ」と思いました。次は、みんなやる気で満ち溢れるチームになれるように頑張りたいです。
E 児	味方にたくさん声を掛けるとやる気が上がったり、チーム力が上がったりいろんな効果があるので、応援とか声掛けはとても大切だと思います。「ナイストライ！」と応援してもらって嬉しかったです。これからも続けていきたいです！応援は力になる気がします。
F 児	声掛けをするとトライにつながるようになりました。「パスして！」などと言われると投げるところがわかるし、投げない人もどこにボールが行くかわかるからです。
G 児	早く準備をして体育館に行ったので、休み時間にパスの仕方でも教えてもらいました。「上から下にこんにちはをさせる」ということや「パスを出したい方向に腕を伸ばす」ということなどを教えてくれました。パスの方向にみんなまで気をつけてパスしたら勝てました。ダイナポアーズの方の声のかけ方を参考に自分もアドバイスをしてみたら、仲間がそのアドバイスを聞いて実行し、見事勝ったので、アドバイスは大切だなと思いました。教えてもらう前は全然声が出ていなかったけど、教えてもらったあとはとても声が出ました。
H 児	今日学んだ声掛けをすることを踏まえて作戦を考えました。運動が苦手な人ほど可能性をもっているから、まず得意な人がボールを持って、「〇〇さんいくよ!!」と言って相手に分らせるようにします。そして相手は〇〇さんにボールが渡ると思うから、その裏を突いて、△△さんにボールを渡すという作戦です。でも注意があって、ボールが来ると思った〇〇さんは悲しんでしまうので、この作戦は実行するんだったら、事前に作戦を伝える必要があります。
I 児	声掛けが少しできるようになりました。例えば、「頑張れ〜!」「行ける!」など、前回と比べて言えるようになりました。そして、チーム内での声掛けも増えてきていて、声掛けをしているのを聞くと、温かい気持ちになりました。そして、声掛けをしているとき「声掛けってとても大切なんだな」と改めて思いました。チームで声掛けができていて、協力してタグラグビーをしているんだなと実感できました。声掛けは少ししかできていないので、次回声掛けが沢山できるように頑張りたいです。また、どんな場面でも協力して動くことがとても大切だと考えました。なぜなら、一人で物事をやるのにも限界があったり、時間がかかってしまったりします。だけど協力して動くことで、アドバイスがたくさん出てきたり、時間がかかからないようにできるからです。だから、協力して動くことは、どの場面でも大切だと考えました。日常生活でも、誰かの役に立てるように協力して行動していきたいです。

【図4】



【図5】



また、励まし合ったり、前向きな言葉を掛けたりすることができるかと回答した児童が単元前は21人だったが、単元後は34人全員ができると回答した。意図的・計画的にスポーツチームを活用し、単元を通してキーワードを軸に指導したことで、「支えること」のよさや楽しさに気付き、できるようになったと考えられる。【図4】

さらに、アドバイスができるかと回答した児童が単元前は21人だったが、単元後は27人へと増えた。【図5】アドバイスをし合うことで、徐々に動き方のポイントやゲームの仕方を理解していった。言葉掛けに焦点化したことが、「知識及び技能」の高まりにも繋がった

#### 4. 成果と課題

単元を通して、児童は、言葉を掛け合うことがチームの関係性を深め、互いのプレーをよりよくするために非常に重要な視点であることが考えた。また、励ましや賞賛は言語によるものだけでなく、拍手などの非言語でも伝えることができると、自分なりの「支えること」ができるようになった児童もいる。さらに、アドバイスをすることによって、仲間のプレーがよくなったり、トライに繋がったりした経験から、「支えること」のよさや楽しさを味わった児童もいた。児童の様子から、三者の共通理解を図ることは有効な手立てだったといえる。

学習のキーワードを共有言語として繰り返し使い、よい姿を積極的に価値づけたことにより、単元が進むに連れて、言葉掛けの重要性がクラス全体へと広がっていった。単元終盤は、コート内外から大きな言葉を掛ける児童が増えたり、大きな声でなくても拍手やハイタッチをしながら仲間を賞賛する姿が見られたりした。トライしたときは、チームで話し合っって決めたゴールパフォーマンスをしながら、自分たちでチームの士気を高めようとする場面も多く見られた。

【図6】

「運動をするにあたって大切にしている視点は何か」という問いに対して、単元前後では、「支えること」の数値は大幅に上がった。さらに、「みること」「知ること」についても数値が増加した。

【図6】多様な運動への関わり方を知り、自分なりの運動の楽しみ方を見つけたのではないかと考える。

しかし、次年度の目指す姿に沿ったスポーツチームのよりよい活用方法について、さらに考えていく必要がある。第5学年を対象とした本単元は、「支えること」を前向きな言葉かけとして捉えたが、第6学年時には「支えること」はチームの動きをよりよくしていくアドバイスなどと捉えて、「思考力、判断力、表現力等」の育成をしていきたい。アドバイスができない理由として、「動き方が分からない」「自分がまだできない」などと「知識及び技能」の観点が挙げられたことから、来年度は「知識及び技能」の育成のためにチームを活用することが有効ではないかと考える。どのような指導計画を立て、チームをどのように活用するのかを考えていくことが次年度への大きな課題です。

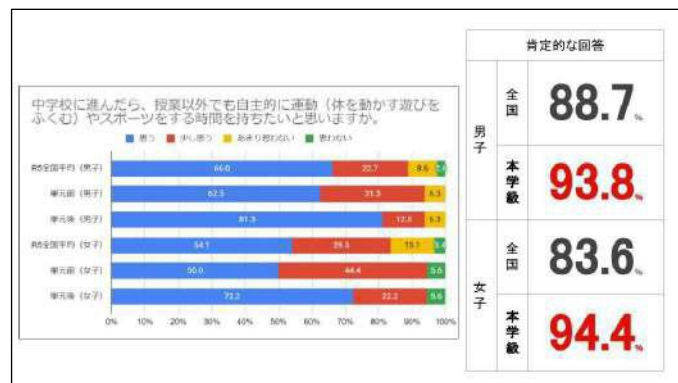


#### 5. まとめ

本研究では、教師が地域スポーツチームを意図的・計画的に活用することで、「支えること」のよさや楽しさを味わうことができるようになった。

その結果、「中学生になったら、自主的に運動をしたい」という思いをもつ児童も増えた。こうした思いが、生涯を通じてスポーツと関わる姿への第一歩であると考えられる。【図7】これからは、学習活動や児童の気付きなどと運動の多様な関わり方「すること」「みること」「支えること」「知ること」を結びつけながら、実践をしていきたい。

【図7】



#### 6. 参考文献

- ・「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編」 文部科学省 H29.7
- ・「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 小学校体育」 文部科学省 国立教育政策研究所 R2.3
- ・「相模原市小学校体育科準教科書 さがみっ子の体育」 相模原市教育委員会 R2.3
- ・タグラグビーオフィシャルウェブサイト JAPAN RUGBY <https://www.tagrugby-japan.jp/>
- ・第1期スポーツ基本計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 H24.3
- ・第2期スポーツ基本計画 文部科学省 スポーツ庁 H29.3
- ・第3期スポーツ基本計画 文部科学省 スポーツ庁 R4.3
- ・スポーツ推進基本計画 文部科学省 スポーツ・青少年局 H12.9
- ・令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 文部科学省 スポーツ庁 R5.12